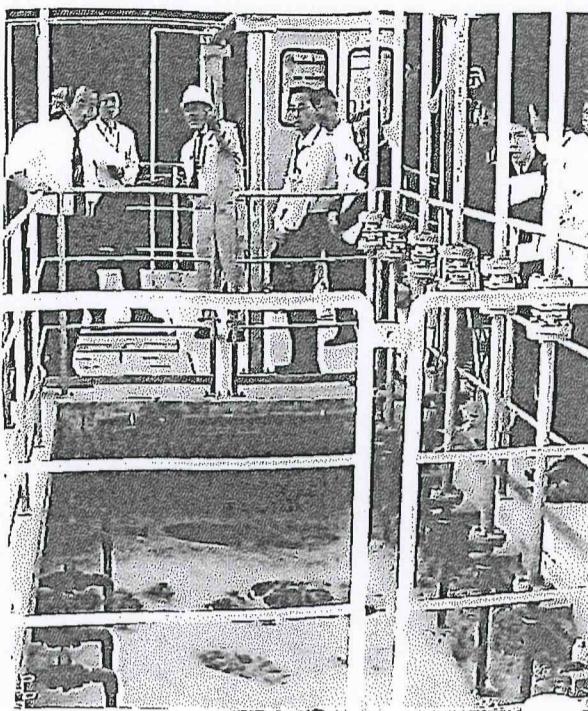


廃棄物処理技術管理協



県廃棄物処理施設技術管理協会(支部長・石原純松江市土地開発公社事務局長)は17日、まつえ環境の森(松江市新庄町、秋山光夫社長)が整備を進める産業廃棄物最終処分場(管理型)で視察

水処理を行い、会員約20人が参加した。同会は、廃棄物処理施設技術管理協会(JAEM)の県内組織で、廃棄物処理法第21条で定める官民の技術管理者ら約50人が加盟。研修では、場内を巡回しながら工程や工事内容、水処理方法などを説明を受けた。参考

加者=松江市新庄町
水処理の説明を受ける参考

受入れ開始へ

1期工事8月完成

整備工事は昨年11月着工し、現在は南西側の拡張部分で切盛土工

事工事は、地山整形、既設処分場の改修や浸出水処理施設整備などピーコクを皮切りに一般への公

開を開いたい」と話している。

まつえ環境の森 処分場工事現場で研修

水処理などに関心

加者は、既存産廃の対策方法や地元との関係構築、最新の技術を導入した浸出水処理施設などに高い関心を示し、まつえ環境の森の担当者らに熱心に質問していた。

浸出水処理施設は、処理能力を既設の80t/日の改修と新・増設で150t/日に拡張。安全性を最優先し、生物処理装置の硝化槽や沈殿槽、高度処理装置の酸性凝集・脱

色装置や放流水槽などを各工程に水質計測器を設け、異常時には自動弁が作動して原水槽に強制的に戻す仕組み。機械の故障など予期しない処理不良が起こった場合でも、汚水は外に排出されないとして

いる。また、機械管理と目視のダブルチェックで処理状態を常時監視し、異常の兆候があれば事前に対策を講じれば事前に対策を講じるなど管理を徹底する。

また、これに伴い、北西側の本体工事に着手。2期工事は切盛土工2万1700m²や法面工、遮水シート工1万6000m²、場内道路工などを施工して14年2月末の完成を目指す。同社の白石正行取締役所長は「工事は無事で順調に進んでいます。全国から問い合わせがあり、営業開始に向けて、今回の研修会

を迎える。今後、遮水シート工1万6000m²等を行って8月に0m等を行って8月に1期工事を完了。仮置きしている既存産廃1万m³を完成部分に移すとともに、受け入れを開始する方針。